

令和3年度 吹田市乳がん検診精度管理委員会 要旨

1 開催日時

令和4年2月19日(土) 午後2時30分から午後3時20分まで

2 開催方法

「ZOOM ミーティング」を用いた Web 開催(事務局:吹田市立保健センター)

3 出席委員(順不同)

相馬孝 委員 辻井健一 委員 渡邊法之 委員 佐藤七夕子 委員 北條茂幸 委員
吉岡泰彦 委員 古川順康 委員 川西克幸 委員 和田公子 委員

4 欠席委員

なし

5 市出席者

健康医療部保健センター

部長 柴田敏之 参事 村山靖子 主幹 黒田雅子 主査 上田雅子 係員 渡邊由梨奈

6 内容

(1)委員紹介・事務局紹介

(2)委員長の選出

古川委員に決定。

(3)報告事項

ア 令和2年度 吹田市乳がん検診実施状況について【資料1、資料2】

A 委員

問診にてしこり「あり」の症例について、市民検診として扱っても良いのか。

B 委員

しこり「あり」の場合は、受診者本人に再度確認し、保険診療に移行すべきではあるが実際は触診してもしこりでない場合もある。

C 委員

問診にてしこり「あり」と記載している人は多く、触診時に確認している。保険診療に移行した方が良いと判断するケースは、本人に説明して保険診療としている。

事務局

視触診で要精検になった場合はすぐに要精検としているため、視触診のみ市民検診扱いとし、以降は精密検査として保険診療としている。

B 委員

視触診でしこりがあった場合に保険診療に切り替えているため、マンモグラフィ検査での乳がん発見率の低さにもつながっているが、確実に発見することが重要。

イ 令和 2 年度 精度管理指標のフィードバックについて【資料 3】

B 委員

一次・二次読影の判定結果を見ていると、二次読影で要精検としているケースが多すぎると感じる。

自分の判定とその結果を見て、今後の自身の読影の傾向を考えてほしい。

ウ 令和 3 年度 乳がん検診チェックリスト集計結果について【資料 4】

(質問等なし)

(4)その他意見交換

ア ブレスト・アウェアネスの指導について【資料なし】

C 委員

病気分類が早期でない方でも、本人がしこりに気づいていない人が多いと感じた。セルフチェックの啓発はどのようにしているのか。

B 委員

ブレストアウェアネスについては、検診する側が伝えなければならない。乳房を意識する生活という言葉もわかりにくい。自分の乳房を触る、入浴中に手で体を洗うだけでもよい。それを説明するだけでよい。

イ 読影のデジタル化について【資料なし】

B 委員

令和 4 年 1 月より、画像の読影をデジタル化に移行した。保健センター・医師会で協力していきたい。